

園内、そして地域で連携し 防災に必要な「応用力」を高めましょう



今回の調査結果について、企業や自治体の防災・危機管理について研究や提言を行っているクライシスマネジメント協議会の長田逸平専務理事に、園に求められる防災・危機管理の考え方をうかがいました。

クライシスマネジメント協議会 専務理事

長田逸平

おさだ・いっぺい

日本経済団体連合会の地域政策グループ長などを経て現職。同協議会は、企業や団体と行政の連携によって、大規模・広域災害に対処する社会環境の整備に取り組んでいる。

防災は園だけでなく 地域全体で取り組むもの

地震や感染症の流行などの災害に対して、被害を小さくし、いち早く復旧するための社会環境を整えるのがクライシスマネジメントです。

地震のような大規模災害では、たまたま自園が被害をほとんど受けなかったとしても、近隣の園が大きな被害を受けることもあります。被災後は地域全体が協力して子どもたちの安全を確保していくことになりすから、平時から自園だけでなく地域やほかの園と連携して防災を考えていく視点が欠かせません。

防災備蓄なども、自園だけで対策を進めるのは予算面などで難しいこともあるでしょう。そんなときは近

隣の園、小学校、福祉施設などと連携し、地域の声として行政などに投げかけていくことも園経営者の役割ではないでしょうか。いつも子どもと向き合い、子どものことを一番わかっているプロとして、気がついたこと、要望などをどんどん外部に発信していただきたいですね。

私は、「課題を一人で抱え込まない」ということが、クライシスマネジメントのポイントだと考えています。保護者のニーズにこたえようと園だけががんばるのではなく、場合によっては園が保護者に支援を求める。園が不安や悩みを保護者、地域に発信することで、園を取り巻く人々は「防災は園任せではなく、自分たちもかかわっていくべきものだ」と気がつくでしょう。



災害に対応する現場力を 語り合いの中で育む

避難訓練を行ったり、防災備品をそろえたりすることも、もちろん重要な防災活動です。しかし、気を付けていただきたいのは、それを型どおりの取り組み、マニュアルづくりで終わらせないということです。災害は予想した通りに発生し、想定通りに対応できるとは限りません。想定外の事態には応用力、現場力が必須です。

現場力を高めるためには、定期的な訓練だけでなく、「もしもこんな場面で、こんなことが起こったらどうする？」と、一人ひとりの保育者が多様な角度から災害場面を想定し、それに対する対策を話し合うのが有効です。経験の異なる保育者が語り合うことで、防災に対する視点が重層化して非常時の対応力が高まるだけでなく、保育者としての育ち合いにもつながるでしょう。

ポイント

- 地域と連携し、要望を大きな声としてまとめていく
- 保護者に対しても必要に応じて支援を要請する
- 職員間で語り合い、「想定外」に対応する現場力を高める